

南国病院広報誌

第31号 2017年1月31日発行



つくし



日本医療機能評価機構認定病院
初回認定 2011年8月5日
3rdG: Ver.1.1 更新認定
主たる機能: 慢性期病院
副機能: 精神科病院

■発行元■

南国市大涌甲 1479-3
医療法人つくし会 南国病院
Tel (代) 088-864-3137
Fax 088-863-3070
<http://www.nankoku-hp.or.jp>



新年のご挨拶と広報誌つくしの院外発送に寄せて

医療法人つくし会 理事長
南国病院 院長 中澤 宏之

新たな年を迎え一言ご挨拶を申し上げます。1月もはや終わりに近づきましたが、皆様には益々ご健勝のことと存じます。昨年は4月の診療報酬改定、6月の病院機能評価更新受審、9月9日の

前理事長死去、12月の地域医療構想策定など院内外で大きな出来事が多かった節目の年となりました。これからはまさに我々民間病院がその地域での役割を明確にする具体的な協議が始まります。医療を通じてどれだけ住民や多機関を巻き込んだ「まちづくり」ができるか、広い視野をもって参画したいと思っております。

さて、本年1月より消化器内科に麻植啓輔医師を迎え当院の内科が2人体制となりました。これまで当院の役割として専門性を求められてきた神経内科、精神科に加えて、今後は消化器内科・内科の診療や身体合併症を持つ神経・精神疾患の診療を含め、微力ながら地域医療に貢献をさせて頂きたいと思っております。そのためには周辺医療機関や介護・福祉関係機関との連携がますます重要になります。その一助として、これまで院内配布のみとしていたこの広報誌「つくし」を本号より日頃当院との連携でお世話になっている院外の関係機関の皆様に対して送付させて頂くことにいたしました。当院の医療機能をご理解頂き当院とのますますの連携、ご指導、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。



南国病院での勤務にあたって

内科 麻植 啓輔

1月から南国病院に赴任致しました内科の麻植啓輔です。

昨年までは高知大学医学部附属病院の消化器内科に所属しており、主に消化器癌の診療を行ってまいりました。大学病院での癌の診療と言いますと病気の性格上、一人の患者さんとの長いお付き合いというのが少ないのが実際です。

「癌を治せるかどうか？」に重きを置いた医療環境、もちろんそれはなくてはならないやりがいのある仕事ではありますが、いつしかその環境でこれから長く続けていくかどうか？とも悩む様になっていました。

南国病院は高度の精神疾患、難治性神経疾患の診療に特化している病院と認識していますが、大学病院よりも慢性疾患、老人医療、地域医療の分野で一人の患者さんと長期に関わる機会を与えてくれる場でもあると考えています。今回お声かけを頂き思い切ってこの環境に身を置いてみようかと決断致しました。

職場は変わりますが驕り高ぶる事のない様、これからの南国病院時代も励んでいきたいと決意を新たに致しております。皆様、これからのご指導ご鞭撻の程何卒宜しくお願い申し上げます。

南国市 認知症初期 集中 支援チーム

南国市からの委託を受け平成27年度のモデル事業より、当院医師、看護師、精神保健福祉士も、南国市包括支援センター・長寿支援課の職員の方と共に、南国市の認知症初期集中支援チーム員として活動して参りました。

平成28年度からは本事業として南国市に設置され、昨年は広報なんこく7月号・南国市社協だより「まんてん」9月号などにも、認知症初期集中支援チームについての記事が掲載されるようになり、徐々に地域の方々への広報も進んできたかと思えます。

平成27年7月から平成28年12月末までの期間で、16件のご相談に対応し、内9件は医療やサービスに繋げることができました。



チームに入り、驚いたことがあります。私の想像では、家族が遠くに住んでいるなどの事情で、認知症の症状を早く察知することができず、重度になってから、チームに相談がくるのだと思っていました。



実際に、症状が進むことで、生活への障害がはっきりとし、銀行や警察、携帯ショップ、市役所、地区の方に『何度も同じことを繰り返す、本人も生活に困っているのでは…』という相談が包括支援センターに入り、チームが動き出します。



ただ、聞き取りを重ねていくと、遠くに住んでいる家族も『5・6年前からおかしいと思っていた。』『10年以上前から物忘れが始まっていた。』など、実は変化に気付いていることが多いということを知りました。

しかし、『何かおかしい』と気付いても認知症を心配しての受診にまでは至らない。

この部分がどうしてもなのを掘り下げることができれば、地域で『困っている人』にならずにいられるのではないかと思います。



チーム発足から2年目となった今、チーム会では、治療を行う為に医療側が知りたい情報の視点と、介護保険など福祉サービスに繋げていく為に地域が知りたい情報の視点をうまく引き出していけるようになってきたと思います。

“住み慣れた地域で生活を続けるために”という目標に向かい、医療と福祉サービスの両輪がうまく動いていけるように、今後も南国市に貢献できるように、地域の皆様に学ばせていただきながら頑張りたいと思います。

地域連携・医療相談室